

## 診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院血液内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身やご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

### 【対象となる方】

2009年1月1日～2018年3月31日の間に、虎の門病院血液内科で“その他の医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患”と診断された方

### 【研究課題名】

“その他の医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患”の臨床病理像についての研究

### 【研究の目的・背景】

“その他の医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患 (Other iatrogenic immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorders : OIIA-LPD)”とは、原発性免疫不全、HIV ウイルス感染症、臓器移植後の3者を除く免疫不全状態を背景として発症するリンパ増殖性疾患です。主に、関節リウマチなどの自己免疫疾患に対してメソトレキセート (MTX) などの免疫抑制剤治療中の患者に生じます。病理組織型としては、B細胞性の悪性リンパ腫であるびまん性大細胞型 B細胞性リンパ腫 (Diffuse large B-cell lymphoma: DLBCL) やホジキンリンパ腫 (Hodgkin lymphoma: HL) などが多いとされています。OIIA-LPDに関係しないDLBCLやHLなどは、化学療法による治療を必要とします。その反面、OIIA-LPDに属するDLBCLやHLでは、免疫抑制剤の投与中止のみにより病変に自然退縮が見られる場合と、化学療法による治療を要する場合があります。そのため、臨床的判断が難しいです。そのため、当院におけるOIIA-LPD症例を集積し、全生存期間や無増悪生存期間及び臨床的特徴を明らかにすることを本研究の目的とします。

### 【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2018年9月10日 ～ 2020年3月31日

### 【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

### 【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別する

ことができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。また、本研究に関わる記録・資料は、個人情報管理者（梶大介）の責任のもと、研究期間の終了後、学会・学術論文等で研究結果を開示したのち、個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

患者基本情報（年齢、性別、原疾患、採血結果、画像所見、病理診断、転帰など）

【虎の門病院における研究責任者】

虎の門病院 血液内科 谷口修一

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、平成30年10月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 血液内科 梶 大介

電話 03-3588-1111(代表)